

病院内に薬学研究室

岐阜薬科大と大垣市民病院連携

岐阜薬科大（岐阜市大学西）と大垣市民病院は26日、共同で臨床薬学研究を進める「医療連携薬学研究室」を市民病院内に設置し



医療連携薬学研究室を紹介する市民病院の宇佐美薬剤部長（左）と岐阜薬科大の吉村教授（右）大垣市民病院で

た。大学と病院が所有するデータを共有し、きめ細かい研究を進める。

市民病院の薬剤師62人のうち、博士号取得者は8人で全国の自治体病院でも高い水準。研究室は同大で博士号を取得した市民病院の薬剤師と大学教授らが担当教員となり、大学が所有するビッグデータや病院が所有する電子カルテの情報を活用。病院で勤務する薬剤師の高度な研究活動をサポートする。

病院はこれまでも学生の実務実習を受け入れてきた。研究室には来年1月から同大の3回生1人が所属し、がんや糖尿病の研究に取り組む。臨床研究の現場を経験してもらい、病院勤務を希望する薬剤師の育成にもつなげる。

同大病院薬学研究室の吉

村知哲教授は「臨床研究のやりがいを学生に知ってもらい、病院で活躍する薬剤師が増えてほしい」。市民病院の宇佐美英績薬剤師部長は「大学と連携し、質の高い研究成果を世界に発信していきたい」と話した。

同大はこれまでも岐阜大（岐阜市柳戸）医学部と岐阜市民病院にサテライト研究室を設けている。

（成田はな）